

ADDRESS SETTING SYSTEM FOR TERMINAL AND TERMINAL EQUIPMENT AND ITS MONITOR TO BE USED FOR THE SAME

Patent Number: JP6195582

Publication date: 1994-07-15

Inventor(s): YASUDA NOBUHIRO

Applicant(s): SECOM CO LTD

Requested Patent: JP6195582

Application Number: JP19920347142 19921225

Priority Number(s):

IPC Classification: G08B26/00; H04L12/28; H04Q9/00

EC Classification:

Equivalents: JP3248966B2

Abstract

PURPOSE: To provide an address setting system capable of improving the sealing performance of an equipment by easily performing the address setting operation on the address setting system to set address numbers to the terminal equipment to be used in a monitoring system.

CONSTITUTION: Plural terminal equipments 1 and 1' are connected to a monitor 2 through a communication line 3 in the communication system. Respective terminal equipments 1 and 1' are provided with a means 13 excited by the specific operation, means 12 transmitting an address request signal to the monitor 2 by exciting the means 13, and means 14 storing the address numbers sent from the monitor 2. The monitor 2 is provided with a means 21 deciding the address number of the terminal equipment 1 in response to the address request signal sent from the terminal equipment 1 and a means 25 sending the address number to the terminal equipment 1.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-195582

(43)公開日 平成6年(1994)7月15日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
G 08 B 26/00		9377-5G		
H 04 L 12/28				
H 04 Q 9/00	3 1 1 A	7170-5K 8732-5K	H 04 L 11/ 00	3 1 0 D

審査請求 未請求 請求項の数4(全5頁)

(21)出願番号 特願平4-347142

(22)出願日 平成4年(1992)12月25日

(71)出願人 000108085

セコム株式会社

東京都新宿区西新宿1丁目26番2号

(72)発明者 安田 信博

東京都三鷹市下連雀6-11-23 セコム株式会社内

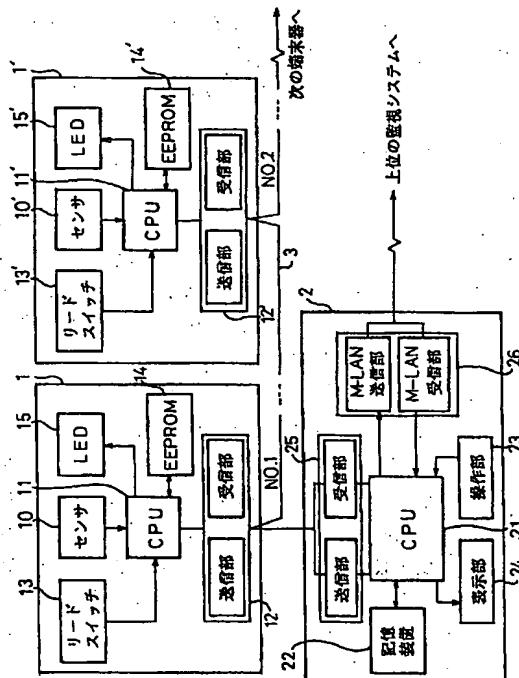
(74)代理人 弁理士 青木 朗 (外4名)

(54)【発明の名称】 端末器のアドレス設定方式、及びこの方式に用いられる端末器とその監視装置

(57)【要約】

【目的】 監視システムで用いる端末器にアドレス番号を設定するためのアドレス設定方式に関し、アドレス設定操作を容易に行うことができ、機器の密封性を向上させることができるアドレス設定方式の提供を目的とする。

【構成】 複数の端末器1が通信路3を介して監視装置2と結ばれる通信方式において、複数の端末器1, 1'の各々に、特定の操作により励起される手段1~3と、この手段の励起によりアドレス要求信号を監視装置に送信する手段1~2と、監視装置から送信されたアドレス番号を格納する手段1~4とを設け、監視装置に、この端末器から送信されたアドレス要求信号に応答してこの端末器のアドレス番号を決定する手段2~1と、このアドレス番号をこの端末器に送信する手段2~5とを設ける。



BEST AVAILABLE COPY

【0006】

【実施例】以下、本発明に係る実施例を図面と共に説明する。図1は、本アドレス設定方式を防犯システムに採用した例を示したものである。図において、1は警戒領域に配置される防犯センサであり、本アドレス設定方式における端末器に相当しており、2は複数の防犯センサ1を集中監視する防犯監視装置であり、本アドレス設定方式における監視装置に相当している。防犯監視装置2には複数の防犯センサ1が、少数の電線3で直列に接続されている。

【0007】防犯センサ1は、例えば焦電素子を備えた侵入センサ本体10と、このセンサ本体10等と接続され、例えばセンサ10の作動時にはセンサ10からの検知信号にアドレス番号を付加した信号を生成すると共に、監視装置2との通信制御を行うCPU11と、監視装置2との通信を行う通信装置12と、CPU11と接続されアドレス設定時に励起されるマグネット・リードスイッチ13と、設定されたアドレス番号を格納するEEPROM14と、CPU11と接続されセンサ本体の作動及びアドレス番号を表すLED15とを備えて構成されている。

【0008】監視装置2は、本防犯システムを制御するCPU21と、係る制御のプログラム及びデータを記憶する記憶装置22と、係る制御のモード選択を行うための操作部23と、表示灯、LED又は液晶等により操作内容及び警報内容を表示する表示部24と、CPU21により制御され防犯センサ1との間で送受信を行う通信装置25と、更に上位の監視システムと接続して階層構造型監視システムを構築するための通信手段26とを備えて構成されている。

【0009】次に、上記構成により各防犯センサのアドレス番号を設定する際の動作について説明する。防犯センサ1は、警備計画の通り各警戒領域内に設置完了され、通信装置12により監視装置2に接続されている。この時点では未だ各防犯センサにはアドレス番号が無く、監視装置2から電源が供給されているだけである。アドレス番号設定に際し、作業者により監視装置2の操作部23にあるモード設定スイッチ(図示せず)が操作されて監視装置2がアドレス設定モードとなると、監視装置2は防犯センサからの呼出しに備えて待機状態となる。

【0010】防犯センサ側では、警備計画で決められたアドレス番号の内、一番小さいアドレス番号、例えば「1」を割当てられた防犯センサ1から順次アドレス設定操作が開始される。このアドレス設定操作は、先端にマグネットの付いた点検棒(図示せず)を当該防犯センサのリードスイッチ13に近づけるだけで自動的に行われる。

【0011】詳細すると、防犯センサのリードスイッチ13に点検棒を近づけると、当該防犯センサのリードス

イッチ13が励起されてオンし、CPU11の制御により監視装置2との伝送が開始されると共に、アドレス番号付与の要求信号がCPU11で生成される。CPU11は、アドレス要求情報の他に、例えば当該防犯センサの種別情報等を基に所定の通信フォーマットを構成し、通信装置の送信部にアドレス要求信号として出力する。これによりアドレス要求信号が監視装置2に送られる。尚、この間の伝送方式は、デジタル伝送方式で行われるが、データの送受が可能なものであれば、その他アナログ伝送方式、無線伝送方式あるいは光伝送方式でも構わない。

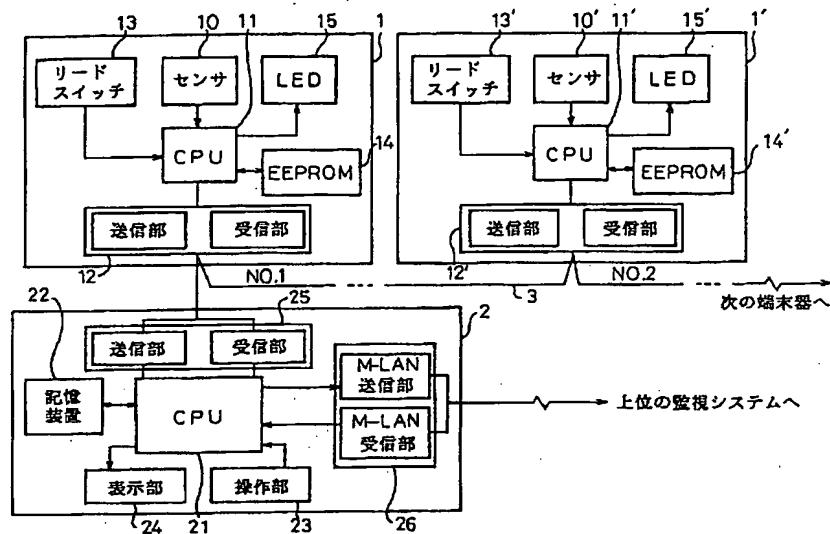
【0012】監視装置のCPU21にアドレス要求信号が入力されると、CPU21は、現在まだ付与していない一番小さいアドレス番号(この場合、最初のアドレス番号「1」)を決定し、決定されたアドレス番号と当該防犯センサ1の情報をROM22内に記憶する。同時にこのアドレス番号は、アドレス信号としてフォーマットされ、通信装置25の送信部を介して伝送線3に送出される。

【0013】当該防犯センサ1は、点検棒によりリードスイッチが「オン」状態にあり、アドレス信号の入力待機状態にあるので、このアドレス信号は、当該防犯センサ1にのみに受信され、CPU11を介してEEPROM14内にアドレス番号「1」が記憶される。このとき他の各防犯センサ1は、リードスイッチが「オン」されていないので、このアドレス信号が受信されることはない。防犯センサ1においてアドレス番号が記憶されると、CPU11は、防犯センサ外面に設けたLED15をアドレス番号と対応する数だけ点滅させ、当該防犯センサに設定されたアドレス番号を告げる。上記の場合、LED15は1回点滅する。

【0014】続いて点検棒で次の防犯センサ1'を操作すると、上記同様、その防犯センサのリードスイッチ13'が「オン」し、このセンサ1'と監視装置2との間で通信が形成され、監視装置2にアドレス要求信号が送出される。監視装置2のCPU21は、現在設定されている最大アドレス番号を、例えば1つカウントアップしたアドレス番号「2」を割当て、送信部25にそのアドレス信号を送出する。これによりこの防犯センサ1'に、アドレス番号「2」が設定され、LED15'が2回点滅する。以下同様、各防犯センサは、警備計画で設定された番号順に各防犯センサのリードスイッチを励起させることにより、順番にアドレス番号が設定される。

【0015】次に、防犯センサの保守並びに修理等において、既にアドレス設定された防犯センサ1'を交換する場合の動作について説明する。防犯センサ1'の交換時、監視装置2の電源は一旦「オフ」にされ、その間に防犯センサ1'が交換される。防犯センサ1'の交換後、監視装置2の電源が再投入されると、監視装置2は、各防犯センサをアドレス番号で呼び出すポーリング

【図1】



REST AVAILABLE COPY